

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392800039		
法人名	医療法人十喜会		
事業所名	グループホーム向陽A		
所在地	愛知県碧南市中山町6-10		
自己評価作成日	令和3年2月2日	評価結果市町村受理日	令和3年4月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は医療法人であり、病院、老人保健施設、デイサービス、居宅介護支援事業所を有しております。  
 本人や家族が望めば、責任を持って最後までお世話させていただきます。安心して入居して頂きたいです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392800039-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392800039-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの生活環境については、リビングや通路が広いことで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような空間が確保されている。リビングから浴室までの距離が長いこともあり、現状の外出が困難な状況下にあっても、日常生活を通じて利用者の歩行訓練の機会にもつながっている。地域の方との交流については、感染症問題があることで困難な状況が続いているが、地域の方との交流の機会をつくる等、現状で可能な取り組みが続けられている。また、医療面での支援については、ホームの運営母体が医療機関であることで、医療面での定期的及び随時の支援が行われており、身体状態が重い方についてもホームでの生活を継続することができる支援体制がつけられている。利用者の中には、ホームで最期を迎える方もあり、利用者や家族にとって、安心して過ごすことができるホームでもある。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年3月17日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当事業所の理念「本人の意思と家族諒思いを十分に尊重する施設」を基に本人のやりたい事をできる限り行うようにしている。	ホーム独自の理念がつくられ、職員による支援の基本としている。理念には、利用者本人の意思と家族の思いを尊重することを目指した内容となっており、日常の支援を通じて理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、回覧板を回したり、声を掛け合ったりする。例年であれば当事業所の秋祭りにご近所の方々を招待したり、地域のハロウィンウォークといった行事に参加しているが、新型コロナウイルスの影響により行うことが出来なかった。	感染症問題が起きたことで、例年はホームからも参加している地域で行われていた行事が中止になる等の影響が出ているが、ホームでは、地域の行事に協力する取り組みを行う等、現状で可能な地域の方との交流が行われている。	隣接している元デイサービスのスペースの活用について、認知症カフェ等の構想があるが、感染症問題もあり実現に至っていない。今後のホームの前向きな取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年であれば地域ケア会議や敷居の低い勉強会への出席や職場体験の受け入れなどを行っているが新型コロナウイルスの影響により行うことが出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で家族に職員の異動、研修等の報告をしている。家族からご意見ご要望を聞く良い機会なので、管理者及び各フロアのリーダーや責任者が出席し、家族の思いを感じ取り日々のケアに活かしている。	今年度は、感染症の状況をみながら会議の開催の判断を行っており、市担当部署にも確認を行いながら会議を開催している。会議の際には、地域の方や家族の参加が得られており、定期的な情報交換の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、市との情報共有を行っているが今年度は新型コロナウイルスの影響により叶わなかった。	市担当部署との連携等については、運営法人の関連事業所を通じて行われているが、市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換の機会をつくっている。また、例年は、介護相談員の訪問も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中の玄関への施錠は行っていない。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、広いホーム内を利用者が自由に移動できるように職員間で利用者に合わせた支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	令和2年9月に法人全体で研修を行い職員への理解を促した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	令和2年9月に法人全体で研修を行い職員への理解を促した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が説明をし、ご家族の疑問・質問に応答する。納得の上捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	例年であれば運営推進会議、利用者様への面会時等で意見交換を行っている。今年度は新型コロナウイルスの影響により思うようにできなかった。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、行事等を通じた交流の機会がつけられている。家族からの要望等については、内容にも合わせて管理者や運営法人で対応している。また、年3回の便りの他にも毎月の利用者毎の報告が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	最低月1回のミーティングを設けており、気軽に意見が言える環境を作っている。	定期的なユニット合同とユニット毎の職員会議が行われており、職員からの意見等を管理者が把握し、内容を運営法人の会議等に報告することで、ホームの運営への反映につなげている。また、職員間での役割分担の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は不定期であるが来設し、直接管理者や職員と話をしている。また、電話はいつでも通じる環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	例年であれば、月1回の法人内勉強会や市内外での外部機関による研修会に希望者が参加していたが、新型コロナウイルスの影響により思うようにできなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県グループホーム連絡協議会に加入しているが、今年は新型コロナウイルスの影響により、交流がほとんどなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面接で好きなこと・嫌いなことの聞き取りを行い、日頃の介護計画に取り入れる。本人の不安を少しでも取り除くよう本人の隣で食事をしたり、お茶を飲んだり寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの本人の性格や好きだった事等家族より聞き取る。家族に入居にあたって心配な事を聞き対応していく。家族も始めは緊張されてい為、コミュニケーションを密に取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の心配ごとへは対応考え、入居して頂いたのだから家族が安心してもらえるように、また場所が変わり本人の不安軽減に対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者ができる事は皆で協力してやってもらっている。掃除、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど、助けあえる環境をつくらせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	例年であれば頻繁な面会やお祭り、忘年会の参加を呼び掛けているが、新型コロナウイルスの影響により思うようにできなかった。しかし、オンライン面会を導入し、短時間ではあるが交流できるように工夫した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	例年であれば馴染みのスーパーに出掛け、知人に会ったりすることがある。友人や親せきが気軽に訪ねて来てくれる雰囲気をつくっているが新型コロナウイルスの影響に思うようにできなかった。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、運営法人の関連事業所に関係の近い方が利用者として利用している方もいる。また、例年は、家族との外出も行われており、利用者の行きつけの場所へ出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が上手に関われるようレクリエーションなどを行っている。しかし気が合わない人もいる為関わる際には十分注意して見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	例年であれば入院し、退去された方でも職員がお見舞いにいったりする。又管理者はグループホームでの生活や家族の思いを病院の看護師や相談員に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の話の中で本人の思い・要望を感じ取ったり、本人と話合いながらケアを行っている。不十分な点は家族より聞き取り、本人本位に行っている。認知症が進んでくるとなかなか難しい点が多いが利用者様が生きがいを持って過ごしていける様に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握と職員間での共有が行われている。また、毎月のユニット毎のカンファレンスを実施しており、利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族に聞いたり、カルテを見たり情報収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りでいつもと違う様子等を伝えている。又月1回のカンファレンスで本人の状態を共有し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン更新時は、職員皆で話し合いながらモニタリングを行いケアプランに役立てている。6ヶ月に1度だが、変化があればその都度ケアプランを変更している。	介護計画については6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化に合わせた対応が行われている。また、日常の支援を通じて介護計画に関する内容を確認し、担当職員も参加しながら6か月でのモニタリングを実施している。	日常の記録の方法やモニタリングの実施方法について、介護計画の内容にも合わせて実施できるように、ホームの検討に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	変化や気づきがあれば、カルテや申し送りノートに記入し、スタッフ間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の希望を可能な限り叶えられるよう、前向きに検討している。今年度はご家族様の要望もあってiPadを用いたオンライン面会を導入した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入し、回覧板を通じて交流している。買い物の際にスーパーの職員との挨拶で地域とのつながりを作れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医が同法人である為、月2度の往診の他、利用者様の訴えにより受診しに行くこともある。	ホームの運営母体が医療機関であることで、医療面での定期的及び随時の支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。また、母体の医療機関の看護師とも連携が行われており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化やスタッフの疑問点があれば、都度同法人の看護師に連絡を取るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先が市民病院や法人内の病院は横のつながりができており、特に支障ない。入院時その病院のソーシャルワーカーに元気な時の本人の状態や性格や特徴など細かに伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所でできる事を十分説明する。本人・家族に入院はどこにしたいか希望を聞き、状態が悪くなれば都度確認する。本人・家族の意向に沿うよう努めている。	医療面の連携を深めながら、身体状態の重い方もホームでの生活を継続するように支援が行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えている方もいる。関連事業所として老健があることで、利用者の身体状態等に合わせた移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルはあるが、夜間等の事故対応に不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災時、地震時の簡単なマニュアルはあるが、夜勤者の不安が大きい。	今年度は年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地位の方との連携についてもホームからも働きかけが行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	デイサービスだったフロアの活用等、非常災害時における地域の方とのホームの協力についても、協力関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格を尊重し適切な声掛けを行う様心掛けている。	ホームの理念にも、利用者を尊重した対応を行うことが掲げられており、職員の日常の支援の基本や振り返りにもつながっている。管理者からも、職員による対応や言葉遣い等で気になった際には、注意を促す等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	好みのおやつ希望や着替えは服を選んでもらったり、二者択一などで選びやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本、本人の生活リズムを大切にしている。居室に入ったり出たり何度もしたり、遅くまで起きていたり、自由である。例年であれば今日はコーヒーを飲みに行きたいと訴える利用者様がいたら喫茶店へ出かけることもあったが新型コロナウイルスの影響で叶わなかった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	できるだけ本人に服を選んでもらったり、日々の化粧水や乳液を付けたい人の支援を行っている。また、床屋・美容室の訪問もあるため希望者は利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に応じた食事を作り、利用者様に季節を楽しんでいただいている。準備や片付けなどは利用者様の能力にあわせて行っている。	メニューを職員で考えて調理を行い、利用者の好みや嗜好等にも配慮した対応も行われている。利用者の調理や片付け等できることに参加している。また、おやつ作りや季節等に合わせた食事作りの他、利用者に合わせて食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量は個々に違う為、本人に合わせて盛りつけている。水分については10時12時15時入浴後に提供しているが、利用者様から訴えがあるときはその都度出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	夕食後の口腔ケアのみ全員しているが、後は人それぞれで、毎食後自分で入れ歯を洗浄する人、うがいのみされる方、能力に応じた支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄は基本トイレで行っている。尿意の訴えがなく尿失禁が多い方には、ご飯、入浴、寝る前など声をかけてトイレに行く機会を促している。	日常的に職員間で利用者の排泄状況の確認が行われており、利用者に合わせて排泄支援につなげる取り組みが行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日朝食にヤクルトを飲んでいる。朝食後のラジオ体操や10時の水分補給の前に軽い体操を行い排便を促している。また、排便管理が必要な方は行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	人員配置の関係上希望通りとはなっていないがゆっくり入ってもらえるように心がけている。	毎日の入浴の準備が行われており、週3回を基本に考えながら、利用者の希望等に合わせて回数にも対応している。利用者の身体状態に合わせて職員2名での対応も行われている。また、入浴剤を活用する等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室でしっかりお昼寝される方ソファでうとうとされる方、好きな場所で休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬の処方箋はいつでも確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の好きなことを把握し、生活に取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	例年であればお菓子を買に行ったり喫茶店に行ったりしているが、新型コロナウイルスの影響により叶わなかった。しかし敷地内の散歩などを行い日光に当たるようにしている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、周辺を散歩したり、感染症の状況をみながら外出する機会をつくる等、現状で可能な取り組みが行われている。例年は、年間を通じて外出行事が行われており、様々な場所への外出が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣い程度の金額を職員が管理し、本人の希望によりおやつ等を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望すれば電話をして頂いている。手紙も出したいと持って来られる方がいらっしやるのでその都度出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	適度な換気、清掃を行い清潔な空間を保持している。行事ごとに飾り付けを行い季節を感じられるように努めている。	ホーム内は広く、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられてあり、外出が困難な状況下でも日常的な歩行訓練にもつながっている。また、リビングの平面には、季節に合わせた飾り付けや写真等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを所々に置き、居心地の良いところで過ごせるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのあるタンスや椅子、鏡台などの配置を家族にお願いしている。本人の人形等を飾っている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた使い慣れた家具類の持ち込みが行われる等、一人ひとりの意向に合わせた居室づくりが行われている。また、身内の方の写真や趣味の物等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関から居室までバリアフリーになっており、手すりも長く設置されている。トイレも広く車椅子の方でも楽に入れる。杖・シルバーカー・歩行器など個々に合った歩行補助具を使用して自由に移動してもらっている。		